

第9期REF 第1回幹事会開催

今期の第1回幹事会が昭和63年9月14日(水)午後6時30分よりREF会議室において開催されました。出席者は児玉氏(副会長)、加藤氏(幹事長)、長村氏(副幹事長)、広田氏(総務)、渡辺氏(財務)、八幡氏(交通、談話会)、杉原氏(縁分科会長代理)、沢崎氏(土地利用、広報)、竹内氏(地盤)、笛木氏(地域事業)、石森氏(理論研)、川村氏(研修会)、福井氏(情報)、稲葉氏(財務支援)、一守(広報支援)の15名でした。

今期は来期の10周年記念行事に向けての準備期間でもあり、例年にも増して幹事会の充実が望まれるところですが、活発な意見交換の結果、第1回幹事会において以下の事項が承認、決議されましたのでご報告します。

なお次回の幹事会は10月20日(木)に開催の予定です。

1. 第9期REF運営基本方針について

今期は来期のREF10周年に向けて、その記念行事の計画及び準備に力を注いでいくということで、幹事会も従来の2ヶ月に1度のペースにとらわれず、記念行事についてのミーティングにあわせて開催していく。

2. 各業務執行基本方針、年間計画及び当面の行事予定

○総務

REF8号の配布状況についての報告の後、配布先の追加が検討され、市役所開発部、建設部、企画部及び都市計画課などへの追加配布が決定。なおシンクタンクへの配布状況を早急に確認する。

またREF内部の交流促進のために各種レクリエーションの実施を検討。

○財務

会費等の支払いについて、直接支払う場合はなるべく分科会ごとに徴収し、幹事会においてまとめて納入する。また銀行振込みの場合は下記の口座へ納入する。なお振込みの際の手数料は今まで通り各自負担とする。

振込み先: 福井銀行大手町店

口座番号: 333-192 REF

また手数料の割安な郵便局の振込み口座を開設の予定。

緊急理論研開催

9月14日幹事会終了後、新教材の決定を急ぐために緊急理論研が開催されました。

今まで上田篤氏の著書にしほって教材を探していたのですが、読み物としてはおもしろいのだが、討論の題材にはなりにくいという声があり、同氏の著書は断念することになりました。そこで新たに児玉氏より雪国暮しについて書かれた古典で「北越雪譜」が推薦され、雪国福井に生活する我々にとっても興味深いということで同書に決定しました。

次回は10月12日(水)午後6時30分よりREF会議室で行ないます。よろしければみなさんも一度参加してみて下さい。

新教材: 「北越雪譜」 鈴木牧之著

(岩波文庫) ¥ 500

○広報

最近のREFニュースは事務的な報告ばかりで、おもしろくないという声があり、記載内容に新企画等を取り入れ、REFニュースをリフレッシュする。現行では2ヶ月に1回の発行だが、今後は月1回発行を原則とし、幹事会報告、分科会だよりを中心とした内容の通常版と情報紙的な新企画を盛り込んだ特版とを隔月で交互に発行していく。なお新企画等、記載内容の詳細は裏面。

○情報

REF内部の情報源として、いろいろな情報を収集、発信していく。また広報と連携をとってREFニュースに掲載する記事を提供する。

○談話会

マレーシア都市調査報告会、丹南地域環境研究会報告、福井(卓)先生の海外研究旅行報告等が候補となっているが、今のところ福井先生にお願いする予定。

○研修会

マレーシア都市調査報告書作成の締切が10月15日となっており、報告書が完成次第談話会にて発表。発表者は花岡氏(山梨大学)、津田氏、水谷さん(同旅行添乗員)各調査班長の予定。

第9期の海外研修旅行については、10周年記念にあわせて豪華に行なってはどうかということで、現在北京—敦煌(6泊7日)で話を進めている。また多少観光色を強め、一般へのオープン参加についても検討している。

○理論研

現在新教材を検討中。参加者募る。

3. 10周年記念行事について

児玉副会長、長村副幹事長から提案。

記念イベント、記念誌発行、記念海外研修を柱として実行委員会がその実施にあたる。実行委員会は、委員長を本多氏(未定)、副委員長を児玉氏、長村氏、実行委員を各幹事として構成され、実行委員はイベント班、記念誌班、海外研修班に分かれてそれぞれ活動していく。それと並行して後援協賛団体及び資金獲得活動も行なっていく。

4. 会員の異動等雑件

岡山和市氏(土木部計画課)が加藤、稲葉両氏の推薦により入会。縁分科会に加入の予定。

第1回談話会決定

テーマ: 「近年の異色海外見聞記」

講師: 福井卓雄 (REF会員)

日時: 10月26日(水)午後6時30分

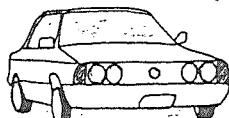
場所: 県職員会館 205号室

内容: 福井氏が近年訪れた米国(バッファロー)、西独(シュトゥットガルト)、トルコ(イスタンブル)、それに中国(北京)等の各都市について、氏の率直な視点から観た都市像をスライドを交えながら発表していただく予定です。

福井氏は、あまり堅苦しくなく余談を含めての発表にしたいとおっしゃっていますので、REF会員だけでなく、多数のご参加をお待ちしています。

.....談話会幹事

交通分科会



9月8日に分科会を開催し、第9期の研究テーマを討議した結果、以下のように決定した。

テーマ：県内交流ネットワークに関する検討

1. 現在のネットワークの評価
2. 県境交通の評価
3. 県内交流ネットワークの構築
4. 県境交通への対応

今後は各項目の担当者が作業を進めていく。

次回は10月13日(木)に開催の予定。

緑分科会



今期は中村毅氏を新たにメンバーに加え、戦力を増強した。
次回の分科会は10月5日(水)に開催予定。

土地利用分科会



9月19日に分科会を開催し、今期は昨年に引き続き、福井における地価をテーマとして分科会活動を行なうことに決定した。

次回は10月6日(木)に福井在住の不動産鑑定士を招き、意見を聞く予定。

※ 広報では分科会だよりに載せる記事を募集しております。
活動の内容や分科会でのおもしろいエピソードなど、なんでも結構ですのでどしどしお寄せ下さい。

分科会 だより

地盤分科会



10月7日(金)に今期第1回目の分科会を開催する予定。

地域事業分科会



今期の活動は総会以前よりスタートしており、7月3日にアンケートまたはヒアリング調査の計画について検討を加え、9月6日に第2回目の会合を行なった。

次回は10月12日(水)に開催の予定。

この秋話題 リフレッシュREFニュース！？

最近のREFニュースがおもしろくないという内部の声に一念発起して、広報沢崎と広報支援一守はこのたびREFニュースのイメージチェンジに着手することにいたしました。

記載内容としては以下に示す通りです。

- a. 分科会だより
- b. REF幹事会報告
- c. メッセージコーナー
- d. ミニデータバンク
- e. TOPICS & NEWS
- f. WORDSアラカルト
- g. 一言コラム
- h. 人物紹介 人物探訪
- i. 他研究会NEWS
- j. アフター5コーナー

(OLフリートーク、プレイスポット紹介)

a～cは今まで主にREFニュースに掲載されてきたもので、その他の企画が新企画ということになります。dはこれまでにREFが蓄積してきたデータの中からその時にタイムリーな数字をピックアップするコーナーで、eでは我々の身近で起きた出来事に目を向けていきます。fは建築や都市計画についての用語を紹介し、その意味を追及していくという企画です。次にgの一言コラムは、REF内外を問わずいろいろな人にコメントをもらい、見聞を深めることができます。hはREF会員同志の交流を深めるためのコーナーで、REFの活動において普段あまり表に出てこない人に特にス

ポットをあてて紹介していくこうと思っています。iでは山梨や秋田の研究会の活動の様子を紹介し、REFとの交流をより一層深めていこうというものです。

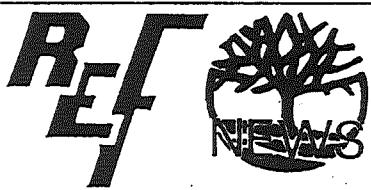
さて最後にjのアフター5コーナーについてです。広報としましては半分遊び心で提案したのですが、幹事会では最も人気が高く、期待も大きいようでした。OLフリートークでは、福井について、できればその都市計画などにも触れて、現代の若い女性の意見を聞いてみようと思っています。今日都市計画においても女性の意見は重要なことですし、この企画でその本音の部分が聞き出せればと内心期待しています。またREFへ女性の力を注入するという意味でもいい機会にしていこうと思います。そしてプレイスポット紹介は、OLフリートークでOLから教えてもらった若い女性の集まる穴場や分科会その他でよく使うお勧めの飲み屋などを紹介しあうコーナーにしていくつもりです。

以上のように新企画盛り沢山のREFニュースは、上記のa、b、cを中心とした通常版とその他の企画で構成する特版とを隔月で交互に発行していきます。とりあえず今回は通常版ということで、次回の特版からは新企画も続々登場してきます。みなさんお待ちかねのOLフリートークも開催の日時が決定し、次号にはその様子を掲載の予定ですのでお楽しみに。なお記事の提供や投書も受け付けておりますので、広報の方へどんどんお寄せ下さい。

それではリフレッシュREFニュースに乞うご期待！！

(by ICHI)

本多先生



'88 NOV. 25
第61号

発行:RESEARCH GROUP OF REGION AND ENVIRONMENT IN FUKUI
〒910 福井市中央3-1-5三谷ビル203(財)地域環境研究所内
福井地域環境研究会
☎ (0776) 27-0078

第9期 R E F 第2回幹事会開催

第2回幹事会が昭和63年10月20日(木)午後 6時30分よりR E F会議室において開催されました。出席者は本多氏(副会長)、加藤氏(幹事長)、前川氏(副幹事長)、広田氏(総務)、八幡氏(交通、談話会)、近藤氏(緑)、竹内氏(地盤)、川村氏(研修会)、福井氏(情報)、一守(広報支援)の10名でした。

今回は来期の10周年記念行事について、特に記念イベントの内容を具体的に討議しました。以下に詳細を記載します。

なお次回の幹事会は11月30日(水)午後 6時30分から開催の予定です。

1. 10周年記念イベントについて

開催日はR E F創立記念日前後の土曜、日曜の2日間ということで話を進めてきたが、本幹事会において、一応昭和64年11月11日(土)、12日(日)に決定した。なお会場の予約、出席者の都合等から変更する場合もある。

また記念イベントのテーマを「地域間交流を通した地域アイデンティティの確立」とし、記念講演、記念討論会、記念エクスカーションで構成する。

○記念講演について

まず開催会場については以下の会場が候補としてあがり、今後検討していくことになったが、開催日1年前である11月中には正式に決定する。

フェニックスプラザ 小ホール(定員 約500名)
" 地下ホール(定員 約200名)

県民会館 大ホール(定員 約800名)

厚生年金会館 越前の間(定員 約350名)

また記念イベント全体のテーマである「地域間交流を通した地域アイデンティティの確立」をテーマに講演を依頼する。

一言コラム

会員 富田 伊太郎

福井地域環境研究会の本質は何か

昭和54年に設立されたR E Fの設立趣意では、「地域の問題を研究し、地域の哲学を確立する。」と述べられている。私の独断かもしれないが、まず福井という冠称は限定と個別性を表わし、地域は同質的広がり、つまり範囲を示し、これは同時に焦点を絞る必要性があることを意味し、環境は研究対象を示し、地域と結ぶ付いて社会的諸事象全般の意味をもつものと思われる。また研究は狭い分野に深く入り込むことを本質としており、○○会は同志的集まりである。つまり要約すれば福井の歴史的所産である社会的諸事象を焦点を絞り深く研究する小さな科学的集団と言える。

ここで科学的集団と言ったのは、官・学・産からなる集団が、地域環境上における課題追及という共通の認識のもとに計画的、客観的な認識活動を展開しようという目的をもっているからである。と同時に現代社会における市民生活に奉仕する使命感をもっているからである。

今日のような科学振興時代には科学と研究は不可分の関係にあり、R E Fの存在は社会的に大きな意義をもっている。

講師については、各幹事の希望を確認する意味で、第1回幹事会において児玉氏より推薦のあった候補者等を参考に、今回の出席者9名(本多氏除く)による人気投票を行なった。ただしこの投票は、講演依頼料、スケジュール等具体的な依頼条件を全く無視したものである。

以下この人気投票における上位10人を列挙する。

- | | |
|-----------|-----------|
| 1. 司馬 遼太郎 | 6. 濑戸内 寂静 |
| 2. 鈴木 健二 | 7. 藤本 義一 |
| 3. 梅棹 忠夫 | 8. 山田 太一 |
| 4. 倉本 聰 | 9. 田村 明 |
| 5. 広瀬 久美子 | 10. 野坂 昭如 |

上記の結果はあくまでも出席者の希望であり、今後は依頼に関する諸条件を検討し、講師の決定を急ぐ。

○記念討論会について

討論会をエクスカーションの前に行なうか、後に行なうかで、多少討論会のもつ意味合いが違ってくると考えられるので、まずスケジュール的な問題を決定し、その後に詳細を検討する。

○記念エクスカーションについて

具体的には、「空からみた福井」、「福井一川下り」等の意見が出されたが、決定までにはいかず、結局実行委員会イベント班に一任することになった。

2. 10周年記念出版について

まず記念誌をイベントの内容を編集した報告書にするか、記念イベントのテーマである「地域間交流を通した地域アイデンティティの確立」について新しく執筆するかを決定する。

前者ならイベント開催後の出版となるが、後者にするならばイベント開催にあわせた出版となり、なるべく早く執筆作業に取りかかる必要がある。

3. 会員の異動等雑件

川上雅一氏(大日本コンサルタント㈱)が加藤、稲葉両氏の推薦により入会。

他研究会ニュース

秋田地域問題研究会

折田 仁典

本研究会は今から12年前の昭和51年、秋田大学清水教授を中心に、秋田県庁、秋田大学学生をメンバーとして発足した。当初は会長、会則といったものも決めず、会員の中から順番に話題提供者を決め、話題提供者は常日頃から自分の携わっている仕事に関する話題を披露し、参加会員からディスカッションを通してコメントしてもらうという形式での勉強会を続けていた。会員が増えた現在では会長、幹事などの担当役員を決め、さらに会員からは会費を徴収するなど研究会らしくした。勉強会としての主な行事は、月1回の例会、年2回の研修旅行(1泊2日)、忘年会等である。例会での話題提供者は会員に限らず、外部にも依頼し(本年度は日銀秋田支店長、女子短大教授などに依頼・無報酬)、貴重な話を聞く機会を得ている。また、研修旅行は1泊2日と短いが、リゾート構想地域の見学などをしない、会員相互の親睦を図っている。なお、現在、会員は大学、県、市、民間と多岐にわたり、会員数は60名である。

第1回談話会開催

今期第1回の談話会が10月26日(水)に県職員会館 205号室で開催されました。講師は福井大学の福井卓雄先生で、「近年の異色海外見聞記」と題して講演していただきました。参加者は川村氏、八幡氏(三和測量㈱)、滝、中川、一守(福井大学大学院)の5名と少なく、福井先生には申し訳なかったのですが、参加した我々にとってはその分密度の濃い談話会であったと思います。

さて内容ですが、福井先生は近年アメリカ、ヨーロッパ、中国などを訪れておられ、その際先生が感じられた各国に対する印象などをスライドを交えながらお聞きしました。

[アメリカ・カナダ]

先生が滞在中お住まいにならっていたニューヨーク州のバッファローは自然の多いきれいな町で、また金沢市と姉妹都市ということもあります。兼六園によく似た公園もスライドで紹介していただきました。ニューヨークといえば大都市、都会といった感じがしますが、ニューヨーク州は、実はアメリカでも最も森林の多い、自然の豊富な州の一つであるということです。

また「ナイアガラの滝」はスライドでさえその雄大さを十分にうかがうことができ、アメリカ、カナダの「広さ」、「おおらかさ」を象徴しているように感じました。

[ヨーロッパ]

西ドイツのシュタットガルトでは、郊外大学への交通の便を確保するために大学内に高速道路を引き込むなどの方法をとっており、ドイツらしい合理的な一面がうかがえました。またアメリカの自然をそのまま活かした町並みの美しさに比べ、西ドイツでは計画された町並みの中にうまく自然を取り入れているような、アメリカとは違う町並みの美しさを感じました。

ヨーロッパのその他の国々についてもそれぞれ特徴ある町並みがスライドで写しだされ、我々の目を楽しませてくれました。

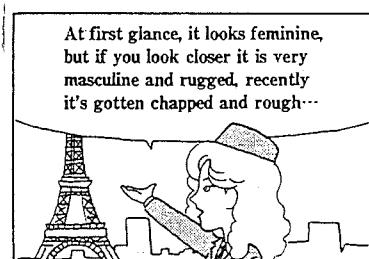
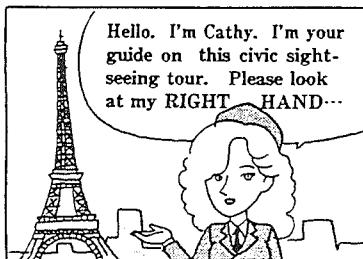
[トルコ]

イスタンブルは東洋と西洋の交錯する町であり、イスラム文化の象徴ともいえるモスクが建ち並ぶ風景には何か引き付けられるものを感じました。またトルコのトイレはその様式が日本のそれと非常に似ており、日本とイスラムの奇妙な共通点に興味を引かれました。

[中国]

とにかく人が多いといった感じでしたが、今の日本ではない「活気」は確かにスライドからも感じられました。また自転車も多く、交差点ではその数に圧倒されて自動車も道を譲るそうです。最近ではカメラも流行ってきていているということで、町の中では写真家気取りでシャッターを押しまくる若者をよく見かけたそうです。

以上、福井先生のお話を聞いて私が感じたままに書いてみたのですが、何か自分の知識、経験の乏しさを再確認させられたような感じで、海外経験の必要性を痛感しました。しかしそれを認識させられたということだけでも、この談話会は私にとって非常に有意義だったのでないかと思いました。



第1回理論研開催

10月12日に第1回理論研が開催されました。出席者は石森氏、児玉氏、加藤氏、前川氏、稲葉氏、一守の6名でした。教材は鈴木牧之著の「北越雪譜」で、今回は最初ということもあり出席者全員で初編巻之上を輪読しました。

この書には、雪深い新潟県の山村を舞台に、そこで生活する人の雪に対する思いが暖国に住む人への皮肉を交えながら書かれています。喜劇あり、悲劇あり、雪国での生活についていろいろおもしろいエピソードが描かれているのですが、同じ雪国に生活する者として筆者に共感するところが多く、またその悲惨さには同情までするほどです。

輪読していくうちにいろいろな意見や感想が出たのですが、その結論としてはこんな感じではなかったかと思います。

『此雪いくばくの力をつひやし、いくばくの錢を費し、終日ほりたる跡へその夜大雪降り夜明けて見れば元のごとし。かゝる時は主人はさら也、下人も頭を低て嘆息をつくのみ也。』
-----「北越雪譜」より



第2回理論研開催

10月12日に第2回理論研が開催されました。出席者は石森氏、児玉氏、加藤氏、前川氏、稲葉氏、一守の6名でした。今回は初編巻之中・下の中から、各自の推薦する話をそれ読んでいきました。

この書は古語づかいで書かれているため、音読していると読み方のわからないところやイントネーションの変なところもあるのですが、古語づかい特有のやわらかい、美しい響きはとても新鮮に感じられました。

なお巻之中からは以下の話が推薦されました。

「秋山の古風」 稲葉氏推薦

「御機屋の靈威」 前川氏 "

「雪中花水祝」 一守 "

巻之下からは以下の通りです。

「雪中の幽霊」 加藤氏推薦

「雪に坐頭を降す」「山言葉」 児玉氏 "

「童の雪遊び」 石森氏 "

選ばれた話は割と喜劇的なものが多く、また中には多少イヤラシイものもありましたが、特に「御機屋の靈威」は出席者全員から今回のNO.1との評価を受けました。どんな内容か知りたい方は理論研へぜひ一度顔を出して下さい。メンバーが懇切丁寧にご説明致します。

次回の理論研は12月21日午後 6時30分よりREF会議室で開催する予定で、巻之一・二からおもしろい話をピックアップして読んでいきます。

人物紹介

今度充之氏の巻

今度充之氏 齢32歳 交通分科会所属
樹東京コンサルタント北陸支店(金沢)勤務
氏の性質は、温和柔軟にして責任感強く、信義に篤し。
(我が輩思い計るに、血液型はAA型か)また、その容姿は、中肉中背(最近、多少お腹が気にかかる)で、紅顔の美少年である。(よって我が輩は、彼と夜の巷に酒を飲みに行くのは甚々好まぬ。何故ならば、同じ年齢であるにもかかわらず、夜の蝶たちは彼を20代そこそこの若者とチャホヤし、それに比して我が輩は30代後半のオジサンと必ず見るが為である。嗚呼、オモシロクなし哉)人の風聞によると、彼は奥方との大恋愛の末、親御の反対?を押し切ってゴールインされたと聞く。その奥方との間には1歳と6歳の1男1女をもうけ、幸福な家庭を築かれている。しかし彼も、幹事である会員のOO氏(敢えて誰とは言わないが、皆様にはおわかりでしょう)と同様、一度お酒を飲み始めると時間という観念を忘れる癖があるらしく、度々午前様(それも2時か3時)になられる。REFのためにも、ご家族のためにも、体にはくれぐれ御自愛されたい。そして今後とも、金沢からでは本当に大変だろうと思いますが、REF活動に益々ご活躍くださいよう、切に希望するものである。

……文章：稲葉氏(交通分科会)

お待たせしました！

OLフリートーク！！

今回は第1回目ということもあり、軽い話題でお送りしようと思います。テーマは「男子たるもの身だしなみ」です。昨夜の深酒で寝坊したあなた、オフィスで身だしなみを整えるのもいいが、OL族の視線は鋭くあなたの全身に注がれているのですぞ。大丈夫ですか？

——「男子たるもの身だしなみ」——

明菜：「会社に来てからドライヤーかけている人ってい
ない？うちには結構いるけど、あれはイヤね～。」

美穂：「うちなんか、ネクタイもせずに、髪も剃らずに会
社に来る人がいるわよ。それでみんな会社でや
ってるの。そういう人ははっきり言ってバスね」

聖子：「そうね～、会社の中でシェーバーもってウロウロ。
普段素敵だな～と思っていても、そういうところ
を見ると幻滅しちゃうわ。」

陽子：「そのくらいまだいいわよ。私の前に座っている人
なんて、私の目の前で平気でズボンを下げてワイ
シャツを直すのよ。まあ最近は慣れてきちゃった
けどね。」

聖子：「ズボンからワイシャツがはみ出している人はよく
いるけど、女の子の目の前でズボン下げて直すな
んてね～。」

明菜：「そんな人は問題外よ。でもいつもそれなりにきちんとしている人でも毎日同じネクタイしてきてたり、オシャレに気をつかるオジサンって少ないわね～。」

全員：「みなさん、素敵なオジサンでいてくださいね。私
たちジット見てるんですよ。」

みんないかがでしたか？心当たりのある方もおいでにな
ったのではないかと思います。明日からちょっとでも気にしてみてはいかがでしょうか。OLたちのあなたを見る目が違うかもしれませんよ。

またオフィスで紳士を自称しているあなた、くれぐれもご油断めされるな。OL族の目は嘲笑に満ちあふれていますよ。ほら！あなたの後ろで……。

ニューフェース紹介

岡山和口市氏 (NO.165)

勤務先：福井県土木部計画課

住 [勤務先] 福井市大手3丁目17-1 (TEL 0776-21-1111)

所 [自宅] 福井市町屋3丁目6-18 (TEL 0776-22-0471)

地域環境について興味のある分野：公園緑地、都市景観

JII上牙准一氏 (NO.166)

勤務先：大日本コンサルタント樹計画部都市計画課

住 [勤務先] 埼玉県越谷市七左町5-1 (TEL 0489-88-8111)

所 [自宅] 埼玉県越谷市赤山町4-9-1 (TEL 0489-65-6065)

地域環境について興味のある分野：都市構成

分科会だより

交通分科会

10月13日に2回目の分科会を開催し、前回の分科会で決定した今期の研究テーマについて各自収集した資料を報告し、討議した。また11月17日に開催された3回目の分科会でも同様に資料を提出し、討議を行なった。

なお次回は12月22日(木)に開催の予定。

縁分科会

10月5日に今後の活動方針について討議を行なった。しかし具体的にテーマを絞り込むまでに至らなかったので、次回に案を持ち寄り決定することになった。

土地利用分科会

10月6日に第2回分科会を開催。他分科会のメンバーも参加し、分科会間の交流が図られた。

次回は11月下旬に開催する予定。

地盤分科会

前回の討議結果を踏まえて、第9期のテーマと活動計画について突っ込んだ討議を行ない、活動方針を決定した。

○月に1回、計7回程度全員による討議を行なうとともに、個人またはグループごとの活動を主体とする。

○現在手持ちの地盤データベースのデータ利用を行なう。

○地盤指標、係数等を調査し、データベースにより計算してみることにする。

次回は12月14日(水)に開催する予定。

地域事業分科会

アンケート調査及びヒアリング調査の対象者の選定。調査実施は64年に変更される見込。

次回は11月24日(木)に藤下マンション 401号室で開催予定。

REFニュース11月号の発行が遅れまして申し訳ありませんでした。来月号は12月中旬に発行の予定です。 (by ICHI)

第9期REF 第3回幹事会開催

第3回幹事が昭和63年11月30日(水)午後6時30分よりREF会議室において開催されました。出席者は加藤氏(幹事長)、長村氏(副幹事長)、前川氏(副幹事長)、広田氏(総務)、渡辺氏(財務)、八幡氏(交通、談話会)、近藤氏(緑)、竹内氏(地盤)、橋本氏(総務支援)、稻葉氏(財務支援)、一守(広報支援)の11名でした。

今回は10周年記念行事について、また中間報告会の日時及び会場等について討議しました。

以下に詳細を記載します。

1. 10周年記念イベントについて

○開催会場について

イベント会場班より、候補として以下の会場について報告があった。

厚生年金会館 定員 400名
(越前A B) 使用料 40,000円

会議等の予約は6ヶ月前より受付
土曜日はまず無理とのこと

県民会館 定員 636名
(大ホール) 使用料 30,890円

昭和63年12月1日より
64年11月の予約受付開始

福井市民福祉社会館 定員 587名
(大ホール) 使用料 27,950円

現在受付中

今のところ昭和64年11月11日はOK

商工会館 定員 250~300名
使用料 28,000円

福井市文化会館 定員 1,318名
(ホール) 使用料 53,300円

昭和64年11月11日は予約済み

フェニックスプラザ 定員 500名
(小ホール) 使用料 32,900円

昭和64年11月11日は予約済み

本申込は6ヶ月前、仮予約なら可能

なお使用料については、入場料を徴収せず、冷暖房を使用しない場合のものである。

今のところ上記の会場の中から決定する予定で、イベント会場班が引き続き検討していく。

第2回談話会決定

テーマ:「マレーシア都市調査団報告会」

発表者:萬匠氏(団長)、瀧君、岡田君(福井大学院生)

日 時:昭和64年1月12日(木) 午後6時30分より

場 所:県職員会館 201号室

内 容:今年度の海外研修として行われたマレーシア都市調査について、首都であるクアラルンプールを中心に、スライドを交えながら発表していく予定です。

・近頃、REF会員諸氏の談話会への足の運びがあまりよくありません。多数のご参加をお待ちしております。

○記念講演について

講師については、幹事会において最も推薦の多かった司葉遼太郎氏を第1候補とし、イベント企画班が講演依頼料、また司葉氏のスケジュール等諸条件を含めて交渉に入る。

○記念誌出版について

出版班に一任する。

なお昭和64年は福井市政100周年にあたり、場合によってはその記念行事にREF10周年記念イベントを組み入れていくことも、会場・予算等の関係から検討の必要があると考えられる。

第9期REF

2. 中間報告会日時決定

今期の中間報告会の日時、会場及びプログラムが以下のように決定しましたのでご報告します。

日時:昭和64年2月2日(木) 午後6:00 ~ 8:30

会場:福井県職員会館 401号室

I. 中間報告会(午後6:00 ~ 7:10)

1. 開会の辞
2. 会長挨拶
3. 分科会報告
 - (1) 交通分科会
 - (2) 緑分科会
 - (3) 土地利用分科会
 - (4) 地盤分科会
 - (5) 地域事業分科会

II. 懇親会(午後7:20 ~ 8:30)

1. 開会の辞
2. 乾杯
3. 歓談
4. 閉会の辞

出欠をお知らせください!!

分科会員は各分科会長にそれぞれ出欠の意志を連絡してください。

その他会員及び会友は、お手数ですがREFの方へ直接郵送にて通知してください。

なお懇親会の会費は2,500円(学生会員1,000円)です。

昭和64年1月18日(水)までご連絡のほどお願い致します。

3. 会員の異動等雑件

東義博氏(三和測量建設㈱)の退会が承認されました。

また理論研に所属している加藤幹事長から、会員のみなさんに理論研に積極的に参加してくださるようにとお願いがありました。現在扱っている教材は雪国の生活を描いた「北越雪譜」という古典で、雪国福井に生活する我々にとって共感するところも多々あり、理論研のメンバーの間でも非常におもしろいと評判です。みなさんもぜひ参加してみてください。なお新しい教材も募集しておりますので、どんどん推薦してください。次回の理論研は12月21日午後6時30分からREF会議室で開催の予定です。

第9期REF 第4回幹事会開催

第4回幹事会が平成元年1月20日(金)午後6時30分よりREF会議室において開催されました。出席者は児玉氏(副会長)、本多氏(副会長)、加藤氏(幹事長)、長村氏(副幹事長)、前川氏(副幹事長)、広田氏(総務)、渡辺氏(財務)、八幡氏(交通、談話会)、中村氏(緑分科会長代理)、沢崎氏(土地利用、広報)、竹内氏(地盤)、川村氏(研修会)、一守(広報支援)の13名でした。

今回は中間報告会、また10周年記念行事等について討議しました。以下に詳細を記載します。

1. 中間報告会について

中間報告会のプログラムが一部変更されましたので、以下ご報告します。

I. 中間報告会(午後6:00～7:10)

1. 開会の辞 (総合司会:橋本氏)
2. 会長挨拶 (会長:富田氏)
3. 分科会報告 (司会:岡山氏)
 - (1) 交通分科会 (未定)
 - (2) 緑分科会 ("")
 - (3) 土地利用分科会 ("")
 - (4) 地盤分科会 (竹内氏)
 - (5) 地域事業分科会 (笹木氏)
 - (6) 水分科会 (未定)
4. 会員の移動報告、紹介 (総務:広田氏)
5. 閉会の辞 (副会長:児玉氏)

II. 懇親会(午後7:20～8:30)

1. 都市計画法法制100周年記念功労者紹介 (山本氏)
2. 開会の辞 (幹事長:加藤氏)
3. 乾杯 (長谷川氏(知恵コンサルタント))
4. 研究助成金贈呈<IRE企画運営委員会> (発表:前川氏、表彰:本多氏)
5. 歓談
6. 閉会の辞 (副幹事長:長村氏)

なお各分科会で出欠の確認を急ぐ。

2. 10周年イベントについて

○記念出版について

出版班より10周年記念誌についての報告があった。

①コンセプト

- ・「住んでいる人のために書かれた」という視点
- ・自分の町の“〇〇〇”として共感をもてる
- ・全国の地方都市に住んでいる人々が自分の町に照らし合わせることができる
- ・誰にでも読みやすい表現
- ・どこの町にでもあるようなことを多少専門的な手法を用いてコメントとビジョンを与える

②内容

基本的にREF報告書第1号から8号に掲載されている報告の中からピックアップし、記念誌のコンセプト、また現在の状況に沿うように加筆、修正を行なう。

・足羽山	緑
・足羽川	水
・駅前 … 鉄道	交通
… 広告	緑
・盛り場	土地利用
・郊外ショッピングセンター	土地利用
・住宅、家族	住
・高齢者と交通	交通
・防災	地盤、水、緑
・地域の夢 (加藤)	交通
・地域相互の交流 (細、嶺、鶴、岐阜)	地域交流

③外形

B6版(200ページ) 1,000円／1冊を予定

④日程

2月幹事会	執筆者の決定…各分科会で選考
4月末	第一校 締切
6月末	第二校 "
8月末	第三校 " 出版社との交渉
10月末(11月11日)	出版

*水分科会出版について

現在休会中の水分科会が、かねてから検討してきた水辺景観に関する本をREF10周年にあわせて出版することがほぼ決定した。

①書名

水辺景観と地域住民 一九十九橋・芝原用水一一

②外形

B6版(200ページ) 1,000～1,500円／1冊

③構成

(1)はじめに	水辺景観と地域住民 福井の状況
(2)足羽川	歴史・水害史 都市の水辺景観
(3)九十九橋	歴史
(4)芝原用水	地域住民のデザイン参加 歴史 アンケート調査 歴史的水辺の再生
(5)一乗谷川	自然を生かした水辺
(6)あとがき	

今後の進展状況についてはREFニュースに掲載していく予定。

○10周年記念イベント

大きな進展はなく、今後引き続き検討していく。

○10周年記念海外研修

現在「シルクロード・コース」、「オーストラリア・コース」、「カナダ・コース」の3案にしぼって話を進めている。

予算は7日間で1人25万円前後、日時としては今のところ8月20日以後ということで検討している。

なお行き先の最終決定、日時及び出欠に関しては、中間報告会においてアンケートを実施する予定。

3. 会員の異動等雑件

加藤、稲葉両氏の推薦により、小島直人氏(今立土木事務所)の入会が承認されました。希望する分科会は今のところ未定で、しばらく各分科会の活動をみた上で決定することです。

第3回理論研開催

平成元年1月24日(火)に第3回理論研が開催されました。出席者は石森氏、児玉氏、加藤氏、前川氏、稲葉氏の5名でした。今回は二編巻之一・二から、各自の推薦する話をそれぞれ読んでいただきました。

卷之一からは以下の話が推薦されました。

- | | |
|-----------|---------------|
| 「雪吹に焼飯を売」 |石森氏推薦 |
| 「家内の冰柱」 |稲葉氏 " |
| 「雪中の用具」 |児玉氏 " |
| 「削氷」 |加藤氏 " |
| 「浦佐の堂参」 |前川氏、一守推薦 |

卷之二からは以下の通りです。

- | | |
|-----------|---------------|
| 「雪頬に熊を得る」 |一守 推薦 |
| 「雪中の葬式」 |児玉氏 " |
| 「竜燈」 |稲葉氏 " |
| 「化石渓」 |加藤氏 " |
| 「危の化石」 |石森氏 " |
| 「夜光の玉」 |前川氏 " |
| 「雪中の狼」 |石森氏、一守推薦 |

次回の理論研は2月22日(水)午後6時30分よりREF会議室で開催します。なお次回で「北越雪譜」が終了する予定ですので、新しい教材としておもしろい本がありましたら、みなさんもどんどん推薦してください。お待ちしております。



分科会 だより



交通分科会

1月27日(金)に分科会を開催し、中間報告会のレジュメについて検討した。すでに各自の分担は決まっており、今回は中間報告用のレジュメの読合せを行なった。また中間報告会では分科会長の八幡氏が発表することに決定した。

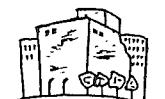
なお2月中に次回の分科会を開催する予定。



緑分科会

1月18日(水)に第3回分科会を開催した。中間報告に向けての意見交換を行ない、本年度の活動テーマを確認した。

次回は2月中に開催予定。



土地利用分科会

1月23日(月)に分科会を開催した。土地・地価に関する情報の分類について検討を行ない、中間報告会のレジュメを作成した。

次回は2月中旬に開催予定。

第2回談話会開催

今期の2回目の談話会が平成元年1月12日(木)に県職員会館201号室で開催されました。今回は昨年8月にREF海外研修として実施されたマレーシア都市調査について、その首都であるクアラルンプールを中心に、スライドを交えながら発表していただきました。

まず萬匠氏の方から調査旅行の概要について発表があり、引き続き旅行全体を通して中川君にスライドを説明してもらいました。その後、瀧君から交通班、岡田君から都市環境班の報告があり、活発な意見交換が行なわれました。



地盤分科会

1月19日(木)に大学研究室にて分科会を開催した。

1. 中間報告のとりまとめ
2. 各種示方書中の地盤に関するパラメータ等の分類作業及び地盤の評価値選択の基本的考え方

上記の事柄について検討を行なった。

次回は2月9日(木)に開催予定。



地域事業分科会

分科会を1月20日(金)及び24日(火)に開催した。アンケートの原案について検討を行なうとともに、中間報告会発表の分担を決定した。

次回は2月22日(水)に開催する予定で、アンケートの最終案を決定するとともに配布・回収方法の検討を行なうこととする。

REF会員総数 只今 95人

-正会員66人 学生会員4人 会友25人-

(平成元年1月31日現在)

交通分科会

『県内交流ネットワークに関する考察』
本研究では、総合交通体系の立場から県内交流ネットワークを考察するもので、県内の交通の歴史、各地域間の時間距離、道路・鉄道、通勤・通学の流動、観光入込客及び情報流についてその実態を把握し、今後の計画情報を見出すものである。

緑分科会

『福井市民にとって足羽川とは』

古来より福井市民は足羽川といろいろなかかわり方をしてきたが、ここで現在のかかわり方を見直し、将来のあるべきかかわり方を模索するために、景観を中心調査を行ない、その結果を解析、評価するものである。

土地利用分科会

『土地・地価情報に関する研究』

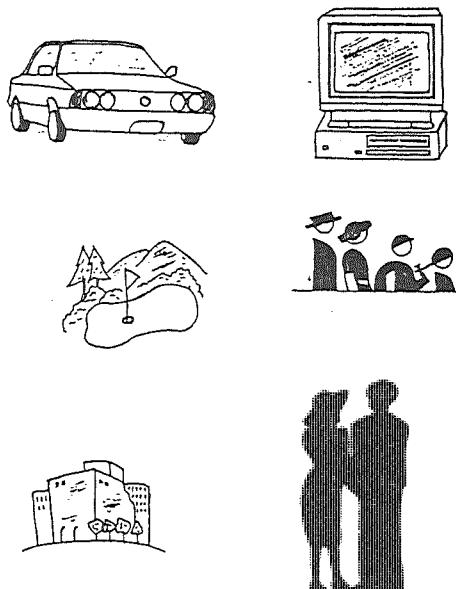
都市計画上、最も重要な要因のひとつである土地・地価について、その基本的構造を踏まえ、まず土地・地価に関する情報を類型化し、最終的には金沢市、富山市、福井市の土地・地価情報を収集、これらの情報について都市比較を行なうものである。

第9期 REF
中間報告会開催!

第9期REF中間報告会が、平成元年2月2日(木)午後6時から福井県職員会館401号室において開催されました。

中間報告会は総合司会の橋本氏の開会の辞に始まり、その後分科会報告が岡山氏の司会で進行、活発な質疑応答、意見交換が行われました。

中間報告会終了後催された懇親会では、都市計画法法制100周年記念功労者表彰を受けられた富田氏、山口氏の紹介もあり、大いに盛り上がる中、会員の親睦を深めました。また(財)地域環境研究所助成対象分科会が発表され、交通分科会に助成金が送られました。最後は長村氏の閉会の辞、そして万歳三唱をもって懇親会を終了しました。



地盤分科会

これまで4期にわたって開発し蓄積した地盤資料データベースシステムを利用し、建設構造物設計に適用する示方書類に記載されている地盤に関するパラメータを幾つか取り上げ、福井市街地における面的な分布を調査し、地盤状態について考察するものである。

地域事業分科会

『福井における地域事業に関する研究』
福井において、現実に成立しうる事業がどのようなものであるかをアンケート、ヒアリング調査などから明らかにし、それを実施するシステムの提案を行なうこととする。

水分科会

現在休会中の水分科会が、REF10周年にあわせて水辺景観に関する本を出版するために活動を再開することになった。詳細はREFニュース1月号に掲載すみ。

なお竺氏が転任にともない4月から会友に異動。

一ヶ月に一回発行するということでスタートした第九期のREFニュースでしたが、先月はREFニュース編集室となつて本多研究室内のワープロ、コピー機が卒論、修論の追い込みでフル稼働状態であつたとのと編集委員である私も雑用等で忙しくしていただため、二月号ができませんでした。紙上にお詫びさせていただき

いの詫び

(by ICHI)

- 一、十周年記念行事について
- 記念出版について
- 各分科会で執筆担当者の決定を急ぐ。
- 記念海外研修について
- 中間報告会において実施したアンケートの結果を踏まえ、本幹事会においてさらに討議した結果、行き先は「カナダ・コース」に決定した。
- 記念イベントについて
- 大きな進展はなく、今後引き続き検討していく。

二、会員の異動等雑件
福井大学本多研究室の滝裕孝君、中川大志郎君が就職に伴い四月より会員から会友へ、小牧リリアン美穂さんがブラジル帰国のために退会、また山納武彦君が新しく入会、土地利用分科会に加入の予定です。

第五回幹事会が平成元年二月二十三日(木)午後6時三十分よりREF会議室において開催されました。出席者は本多氏(副会長)、児玉氏(副会長)、加藤氏(幹事長)、長村氏(副幹事長)、前川氏(副幹事長)、八幡氏(交通・談話会)、近藤氏(緑)、石森氏(理論研)、川村氏(研修会)、橋本氏(総務支援)、稻葉氏(財務支援)、一守(広報支援)の十二名でした。
今回は十周年記念行事について中心に討議しました。なお次回は四月十三日(木)に開催の予定です。

第九期 REF

第五回幹事会開催

人物紹介

城下裕子 嬢の巻

城下裕子 嬢 交通分科会所属

北陸日本電気ソフトウェア㈱勤務

REF 8号の会員名簿をみると、女性の会員数は5人、正会員になると2人だけになってしまいます。これだけでも貴女の存在はREFにとって大きなものだと思いますが、貴女はそれだけの女性ではありません。貴女の多方面への旺盛な好奇心と素早い行動力は、時としてまわりを驚かせる程です。またヤマトナデシコというか、とても日本女性を感じさせるところもあるように思えます。ただ、その好奇心と行動力のためなのか、仕事で多忙なのか、REF活動になかなかご参加頂けないというのが貴女の唯一の問題でしょうか。

ところで現在は独身の貴女ですが、そろそろ……という噂を最近耳にしました。本当のところはどうなのでしょうか。結婚によりREF活動ができなくなるのでは考えると、いつもでも…と思うのだが。

今後のREFにおける貴女の活躍を願って。

…文章：八幡氏（交通分科会）

OLフリートーク！

vol.2

2回目を迎えたOLフリートーク、今回は日本放送出版協会より発行されている月間「weeks」の中から、OLたちの忠告をオジさん諸氏に紹介します。

—「電話中の無意識な行動も



OLたちの嘲笑の目にさらされている！」—

NTTリポートによれば、OLに悪評のビジネスマンの電話応対ワースト3は、「やたら大声で話す」「だらだら電話する」「たばこを吸いながら電話する」であるという。

電話の上手な応対は、有能なビジネスマンの条件の一つ。ところがOLの目から見ると、どうもオジさんたちの電話のしかたは「おうへい」で「気が利かない」場合が多いらしい。そこで「許せない、オジさんの電話の応対」を以下に紹介していこう。身に覚えのあるお方はチェックして反省すべし。

「伝言を忘れる。OLにかかるてくる電話なんてどうせたいしたことないと思ってるよね！“そういえばさっき電話があったけど、だれからだったかな？”なんて、メモくらいしといてよッ」

「コピーとりで席を立って帰ってくると、私の席に座つて電話してるの。それも長々と30分以上も。ほんとに迷惑。長電話するなら自分の席でかけて。」

「オジさんの使ったあの電話って、ポマードとかリキッドのにおいがして気持悪いんですね。」

「電話中はたばこを消しといて！灰皿の中で燃えてるたばこが臭いよ。」

「昼休みのあと、つまようじを使いながら、モゴモゴと“ハイ、モヒモヒ”と電話する感覚が信じられない！」

「相手が専務とかエライ人になると、いきなり声が一オクターブ高くなる。人によって態度を変えるのがロコソつの」

「ふんぞりかえって、天井を見ながら、イスをぐるぐる回して電話をしている係長。たいしてエラくもないのに、あんまりエラソーな態度だからヘンです。」

全く、さんざんな言われようだ。そのほか「ボールペンをクルクル回してる」など、電話中の無意識の行動もまた、今職場でOLの嘲笑の目にさらされている！

他研究会ニュース

21世紀「都市と農村」研究会 (岐阜県)

「文化と地域を考える連続講演会」記録より
(昭和63年6月～7月にかけて3回開催)

○挨拶にかえて

現代の日本社会は、戦後復興から高度経済成長期を経て経済大国となつたが、国民生活において本質的に豊かになってきたのだろうか疑問が残る。戦後社会において正すべき歪のひとつの分野が地域問題ではなかろうか。

地域問題の中でも最たるもののが過疎過密の問題であり、都市と農村における問題である。岐阜県は深刻な過疎に悩む農村部を抱えている一方で、都市部においても地価の高騰、交通渋滞、街の活気のなさといった問題が生じている。このような問題は複雑でかつ多岐にわたっているが、地方のことは地方自身が自分で解決しなければ本当の展望は開けてこない。

この「文化と地域を考える連続講演会」の企画は、豊かさの中で欠けているもの、経済成長の中で置き忘れてきたものを見直し、新しい地域の可能性を考えはどうかと発案され、6人の講師に講演を頂いた。

- 1) 「岐阜県のイメージ戦略」
梶原拓氏（岐阜県副知事）
- 2) 「イタリア具象彫刻展について」
青木正弘氏（岐阜県美術館学芸員）
- 3) 「美しい都市の創造」
丹原光隆氏（岐阜県土木部長）
- 4) 「岐阜県美術館のルドン」
山本敦子氏（岐阜県美術館学芸員）
- 5) 「都市と交通の未来像」
加藤晃氏（岐阜大学教授）
- 6) 「日本文化と郷土の作家たち」
平光明彦氏（岐阜県美術館学芸課長）

*当冊子は21世紀「都市と農村」研究会より送付頂いており、REF事務局に備え付けてありますので、ご自由にご覧下さい。

第4・5回理論研開催

平成元年2月22日(水)に第4回理論研が開催されました。出席者は石森氏、児玉氏、加藤氏、前川氏、稻葉氏、一守の6名でした。今回は二編巻之三、巻之四から、各自の推薦する話をそれぞれ読み、以上で「北越雪譜」を終了しました。

巻之三からは以下の話が推薦されました。

- | | |
|-----------|---------|
| 「迷入村の不思議」 | 「田代の七釜」 |
| 「地獄谷の火」 | 「無縫塔」 |
| 「年賀の哥」 | 「北高和尚」 |

巻之四からは以下のとおりです。

- | | |
|---------|---------|
| 「異獣」 | 「弘智法印」 |
| 「美人」 | 「苗場山」 |
| 「三四月の雪」 | 「鶴恩に報ゆ」 |

また第5回理論研も3月23日(木)に上記の6名によって開催されました。今回からは、現実や世界を読み解いていくためのキーワード=述語について、概念の明確化を試みながら現代思想の本質を把握していくこうとする『術語集』(中村雄二郎著)を新教材として取り上げ、当日はその中から、「アイデンティティ」、「遊び」、「アナロギア」、「暗黙知」、「コモン・センス」を読みました。

なお次回は4月27日(木)に開催の予定です。

新教材：『術語集－気になることば－』(中村雄二郎著)
(岩波新書) ¥500

一言コラム

会員 武井 幸久

観念的な都市像

都市は人の密集居住地、つまり地縁的集団のテリトリーとみなされてきた。「村は神、都市は人間が造った」という衆知の表現がある。一方、ジェイコブスは、都市的なもの=神殿が、村的なもの生産の場に先行すると主張している。こうして、都邑についても鶏と卵の関係が想定でき、チューネン圈を始めとする圏域論からハワードの田園都市へと至る道は、両者を「人間（計画行為）が」調整できるという思い込みと結びついている。

だが、こうした思考はテリトリー意識や伝統を踏まえたものであり、その後の空間論とは異質である。広域的交流はトリー（階層）、ネットワーク（均質空間）、モビリティーと機能を重視する意識を生み、通時的な環境を「近隣住区」と記号性へと押し込め、共時的な機能性を数学へと明け渡してしまった。「都市のイメージ」は今や古典となったが、その作者リンチー……ちなみに、彼は一生自動車を運転しなかった……は、記号的環境の認知問題を提起し、居住問題を集団の手に引き戻すことを語りながら昨年他界した。同時期、「都市はトリーではない」と主張したアレグサンダーはセミラティス、ネットワークの集合論から環境舞台の要素カタログ「パタン・ランゲージ」へと辿り着いている。

そして今、かつて均質化へと向かった意識は、ものと道具の多様化を背景として、差異化・個性化への道を歩み始めている。レジャー・ファッショントリーム、都市間競争、限りなくレトロっぽいポスト・モダン（マニエリズム）。ふるさと創生論は、その動きと向き合っている。シュミラーカル（模擬的なもの・フィクション）や表層性がイベント・景観問題のかたちで流布している現在、それが次代を担う意識を育てるという意味において地域的な差異を生み出す。現代は、いわば、文明化されたアニミズム・イコンの雰囲気を醸し出している。「場所が人を、人が新たな場所を生み出す」、スパイラルな系列が今度はレベルダウンではなく、ボトムアップの様式で回り始めている。

最後に、そのキーワードを幾つか挙げてみよう。最初は「劇場（ヤヌス）都市」、街はハレの場「舞台=客席（フィ

クション）」とケの場「楽屋（日常性）」からなる。双面は異なる論理をもち、まず同一基準で語ることをやめなければならない。各個人がギリシャ劇のコロス（唱和団）のように思い思いの唱を奏で始めている。それが全体としてパリ島のケチャのようにまとまりをみせる場。客席は外に日常性（楽屋）を残した人々の舞台、そして演技者の舞台と楽屋。「イリュージョン」の劇場は見事な三位一体を示している。まとも、ジェミニのCFが見せつけるような車の舞台であってはならない。手段がシテを取って疾駆する、そんな逆説からそろそろ脱皮する時である。

第二は遠近法のバランス。わが国の伝統の逆遠近法、長いものには巻かれるという図式は、自然を借景とする限り意味をもつが、肝心のテリトリー・コミュニティーについてまで上から押しつけられる必要はない。自分たちの場を自主管理する視点を育てることが重要である。殊に、ハレの舞台については、自らが装うために街の装いを考えるべきだろう。ジャージで歩ける県庁所在地の都心、いささか恥ずかしい気がする。

第三は、大和風シンボリズムからの脱却。わが国には、現実を仮の姿とし、本質は別のところにという奇妙な象徴意識がある。言葉で残れば、形はなくなても構わない。街は伝統よりも機能、この点が次代に伝えるものの見えにくい、味気ない街につながっている。

第四は、エディトリアルな文化、引用とアレンジによる雰囲気づくりである。パターンを模倣するより、よいものを積極的に引用して配置形態を独特のものに組み換える。わが国には、あるものを何かに「見立てる」という独特の美学がある。次代へと伝えるべきものを目に見える形にすること。独創性は引用と編集からしか生まれてこない。

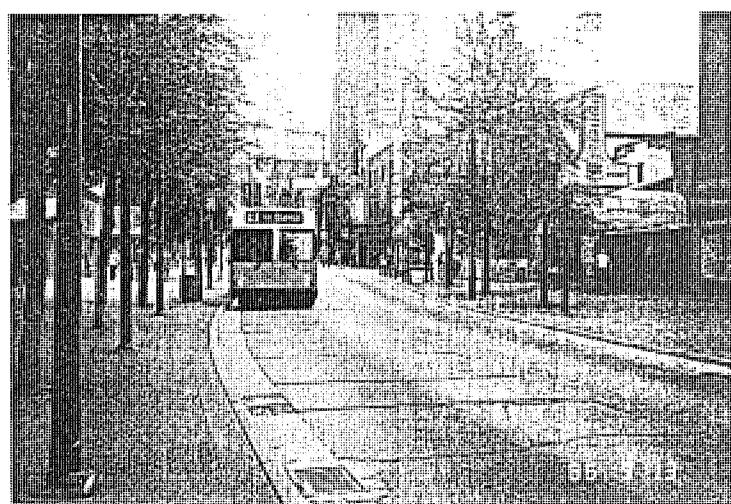
第五は教育（生涯学習）の観点である。どこで何をどうするのか、そこがどういう場所なのか、そうした全世代に共通する意識の育成が低いレベルからうまくまわれば、そのためのシステム（コミュニティー）も出来上がってくる。そのことがアイデンティティや生活の場の輪郭を鮮明にし、ひいてはテリトリーの確立に結び付く。劇場都市としてのまとまりは、間違なくテリトリーの複合体とその節目の明確から生まれるはずである。

まちづくりは、ひとづくり、組織づくり、REFの仕事もそろそろこの方向へと軌道修正すべきときなのかもしれない。

10周年記念海外研修ご案内！

今期の海外研修の旅程が、右記のように決定しましたのでご案内します。今回はREF 10周年ということもあり、行き先もアジアを離れ、北アメリカ大陸カナダへと足をのばすことになりました。多数の参加者をお待ちしております。

問い合わせ：研修会幹事 川村一治（三和測量建設㈱）



グランドビルのトランジットモール

<ご 方 法 程 度 日 付 西 南 表 >

日 数	月 日	曜 日	地 名	現 時 刻	交 通 機 関	宿 泊 場 所	要 約	朝 食	昼 食	夕 食
1	8月 24日	木	成田 空港	18:00	JL-012	空路、バンクーバー経由カルガリーへ 到着後、市内観察 <カルガリー泊>	× × 以内	× × 内	× × 内	× × 内
2	8月 25日	金	カルガリー バンフ ピットカーディー バンフ	10:30 13:15 15:30	CP-994	コロンビアアイスフィールドパークウェイを ドライブ、途中ルイーズ湖・ベイトー洞など を見て、コロンビア氷原・アサパスカ氷河 へ（スノーコーチ） <バンフ泊>	× × 内	× × 内	× × 内	× × 内
3	8月 26日	土	バンフ カルガリー バンフ	午後 18:00 18:21	AC-217	山麓まで自由研修 (サルファー・マウンテンなど) 空路、バンクーバーへ 到着後、ホテルへ <バンクーバー泊>	× × ル	× × ル	× × 内	× × 内
4	8月 27日	日	バンクーバー			午前、市内観察 (クィーンエリザベス公園、スタンレー公園 など) 午後、自由研修 <バンクーバー泊>	× × ル	× × ル	× × 内	× × 内
5	8月 28日	月	バンクーバー			終日、自由研修 o p : ピクトリア周遊観察 <バンクーバー泊>	× × ル	× × ル	× × 内	× × 内
6	8月 29日	火	バンクーバー 発	13:35	JL-017	山麓まで自由研修 空路、帰國の途へ <機内泊>	× × ル	× × 内	× × 内	× × 内
7	8月 30日	水	成田 空港	15:15		到着後、通関を経て解説	× × 内	× × 内	× × 内	× × 内

JL: 日本航空 CP: カナディアン航空 AC: エーカナダ

(株)阪急交通社

木内先生



'89 MAY. 31
第65号

発行:RESEARCH GROUP OF REGION AND ENVIRONMENT IN FUKUI

〒910 福井市中央3-1-5三谷ビル203(財)地域環境研究所内
福井地域環境研究会 ☎ (0776) 27-0078

第9期REF 第6回幹事会開催

第6回幹事が平成元年4月13日(木)午後6時30分よりREF会議室において開催されました。出席者は児玉氏(副会長)、加藤氏(幹事長)、前川氏(副幹事長)、広田氏(総務)、渡辺氏(財務)、八幡氏(交通、談話会)、杉原氏(緑分科会長代理)、沢崎氏(土地利用、広報)、竹内氏(地盤)、一守(広報支援)の10名でした。

今回は10周年記念行事、REF9号の編集方針について討議しました。以下に詳細を記載します。

1. 10周年記念行事について

○10周年記念イベントについて

イベントに対する助成金として、「村田学術振興財団」の助成金の申請を検討したが、申請期限に間にあわないということで断念することになった。今後は「福井県イメージアップイベント」への協賛を検討していく。

また記念講演の講師として司馬氏と交渉を進めていたがスケジュールの都合等により断念し、イベント班でその他の講師を探すことになった。今後の活動はイベント班に一任し、決定後幹事会にて承認することとする。

○10周年記念出版について

執筆者は5月11日までに第1稿を完成し、当日開催される編集委員会に提出する。

○10周年記念海外研修について

前回の幹事会において、行き先はカナダに決定したが、4月12日現在、加藤幹事長をはじめ10人前後から参加に前向きな回答が寄せられている。今後も引き続き参加者の確認を急ぐ。

2. REF9号の編集について

REF9号の編集方針を以下に示す。

①編集スケジュール

ア 第1回編集委員会議	5月 1日
イ 原稿締切	6月30日
ウ 校正、印刷	7月上旬
エ 報告書完成	7月中旬

②編集委員の選任

第1回編集委員会議までに各分科会から編集委員を1人選任する。

③REF9号目次

ア 卷頭言	
イ 特別寄稿	
ウ 活動報告	
エ 海外視察報告	
オ 研究報告(交通・緑・土地利用・地盤・地域事業)	
カ 福井地域環境研究会規約	
キ 会員名簿	

3. 会員の異動等雑件

本幹事会において、伊藤正明氏(三和測量)の入会が承認されました。交通分科会に加入が内定しています。また第10回の総会が7月22日(土)に県職員会館401号室において開催されることが決定しました。詳細については決定次第REFニュースに掲載していく予定です。

REF第9号編集委員会開催

第1回の編集委員会が5月1日(月)に開催され、以下の事項が決定いたしましたのでご報告します。

1. 編集委員会メンバー

編集委員長	沢崎氏(広報)
編集委員	八幡氏(交通) 鈴木氏(地盤) 近藤氏(緑) 笹木氏(地域事業)
	沢崎氏(土地利用) 一守(広報支援)

2. 内容執筆者

1) 卷頭言	[長村氏]
2) 特別寄稿	[福原氏] [近藤氏]
3) 活動報告	締切 6月15日(木) ア 分科会のテーマ・メンバー・開催日
	[各分科会編集委員]
イ 理論研究会報告	[石森氏]
ウ 談話会報告	[八幡氏]
エ 研修会報告	[海外調査 川村氏] [国内研修 前川氏]
オ 幹事会	[広報]
カ 中間報告	[広報]
4) 海外視察報告(都市交通調査班・都市環境調査班)	
5) 分科会研究報告	[各分科会編集委員]
6) 福井地域環境研究会規約	[広報]
7) 会員名簿及び第9期役員	[広報]

最終締切 6月30日(金) PM 6:30 第2回編集委員会

第6回理論研開催

平成元年4月27日(木)に第6回理論研が開催されました。出席者は石森氏、加藤氏、前川氏、一守に加え、今回から福井大学研究生の山納君が入会しました。

教材として前回から『術語集』を取り上げており、今回はその中から以下の5つの語について読んでいきました。

7. エントロピー 加藤氏担当
6. エロス 石森氏 "
9. 記号 山 納 "
18. 差異 一 守 "
36. 暴力 前川氏 "

第7回理論研開催

5月25日(木)に第7回理論研の開催されました。出席者は石森氏、加藤氏、前川氏、山納君、一守の5名でした。

今回は以下の5つの語について読みました。

8. 仮面 山 納担当
10. 狂気 前川氏 "
26. 通過儀礼 一 守 "
12. 劇場国家 石森氏 "
11. 共同主観 加藤氏 "

著者が哲学者ということもあり、その内容は多分に哲学的で理解しにくい点もあるのですが、理論研ではメンバーの独断と偏見にあふれた解釈でこの「術語集」を読破しようとしております。みなさんもぜひ理論研に参加して意見をお聞かせ下さい。なお次回は6月16日(金)に開催の予定です。

REF10周年記念・第3次IRE 海外研修のご案内

今年は記念事業の一環として、「カナダ・コース」と「シルクロード・コース」の2コースを設定することになりました。今回は都市調査のみならず、リゾート地での滞在や史跡の見聞なども広くスケジュールに取り入れる予定ですので、東西両文明のいずれかに心ゆくまで浸って頂けると確信しております。どうぞご家族、ご友人お誘い合せのうえご参加下さい。

1. カナダ・コース

期間：1989年 8月24日(木)～30日(水)

目的地：カナダ西部（カルガリー、バンフ、バンクーバー）

費用：32万円程度（諸手数料、保険料、成田までの交通費別）

準備の都合上、6月末日までに最終人員を確定させたいと考えておりますので、参加希望の方は氏名、勤務先（または住所）、年齢等を幹事までご連絡下さい。（連絡先：福井市花堂 1-7-25 三和測量建設勘計画部 川村一治 ☎ 0776-36-2790）

2. シルクロード・コース

期間：1989年 8月20日(日)～26日(土)

目的地：中国（北京、蘭州、敦煌）

費用：30万円程度

1. カナダ・コース（注：検討中につき変更があります）

日	月/日	曜	地 名	現 地 時 刻	交 通 機 関	摘 要
1 8/24	木	成 田 発	カルガリー	18:00	JL-012	空路バンクーバー経由カルガリーへ
		着	バンクーバー	10:30	CP-994	
		発	バンクーバー	13:15		到着後市内観察（カルガリー泊）
		着	カルガリー	15:30		
2 8/25	金	カルガリー — バンフ — コロンビア大氷原 — バンフ	朝	バス		コロンビアアイスフィールドパークウェイをドライブ、途中リレイーズ湖等を見て、コロンビア大氷原・アサバスカ氷河へ（スノーコーチ）
						(バンフ泊)
			夕 刻			
3 8/26	土	バンフ — カルガリー カルガリー 発 バンクーバー 着		出発まで自山研修（サルファー・マウンテン等）		
				18:00	AC-217	空路バンクーバーへ（バンクーバー泊）
4 8/27	日	バンクーバー				午前、市内観察（クィーンエリザベス公園、スタンレー公園等）
						午後、自山研修（バンクーバー泊）
5 8/28	月	バンクーバー				終日、自山研修（ビクトリア周遊観察のオプションツアー等）（バンクーバー泊）
6 8/29	火	バンクーバー 発 バンクーバー 着	13:35	JL-017		出発まで自山研修 空路帰国の途へ（機中泊）
7 8/30	水	成 田 着	15:15			到着後、通関を経て解放

2. シルクロード・コース（注：検討中につき変更があります）

日	月/日	曜	地 名	現 地 時 刻	交 通 機 関	摘 要
1 8/20	日	大 阪 発	北 北 京	9:25	JL-785	空路北京経由蘭州へ
		着	北 京	12:55		
		発	北 蘭 州	19:25	CA2116	
		着	蘭 州	21:55		(蘭州泊)
2 8/21	月	蘭 州 発	敦 煙	8:50	CA2203	空路敦煌へ 市内観光（敦煌博物館等）
		着	敦 煙	12:30		(敦煌泊)
3 8/22	火	敦 煙				市内観光（敦煌泊）
4 8/23	水	敦 煙 発	蘭 州	11:10	CA2252	空路蘭州へ 市内観光（蘭州泊）
5 8/24	木	蘭 州 発	北 京	12:55	CA2113	空路北京へ 市内観光（北京泊）
6 8/25	金	北 京				郊外観光（万里の長城、明の十三陵等）（北京泊）
7 8/26	土	北 京 発	大 阪	16:00	JL-786	空路帰国の途へ 到着後、通関を経て解放
		着	大 阪	19:15		

分科会だより

交通分科会

現在、各自で担当の作業を進めている。次回の分科会において総合的なチェックを行ない、報告書全体の構成を確定する。その後編集に入る予定。

なお次回の分科会は 6月 9日(金)に開催。

土地利用分科会

次回の分科会では家賃と地価の関連について具体的なデータより作業を進める予定。

次回は 6月 9日(金)に開催の予定。

縁分科会

次回の分科会で各自の分担を決定し、その後原稿をもちより、編集に入る予定。

次回は 6月10日(土)に開催の予定。

地盤分科会

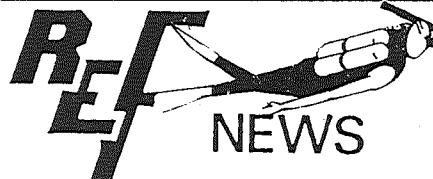
次回の分科会において地盤パラメータの整理及びその評価を行なう予定。

次回は 6月 6日(火)に開催の予定。

地域事業分科会

5月25日に決定したアンケート票の作成とアンケートの実施を 6月中に行なう予定。

本多先生



89 JUL. 20

第66号

発行:RESEARCH GROUP OF REGION AND ENVIRONMENT IN FUKUI

〒910 福井市中央3-1-5三谷ビル203(財)地域環境研究所内
福井地域環境研究会

☎ (0776) 27-0078

第9期REF 第7回幹事会開催

第6回幹事会が平成元年6月15日(木)午後6時30分よりREF会議室において開催されました。出席者は児玉氏(副会長)、広田氏(総務)、渡辺氏(財務)、近藤氏(緑)、沢崎氏(土地利用、広報)、川村氏(研修会)、橋本氏(総務支援)、一守(広報支援)の8名でした。

今回は10周年記念行事、第9期分科会報告会及び第10回総会について討議しました。以下に詳細を記載します。

1. 10周年記念行事について

○10周年記念イベントについて

記念講演の講師として新たに野坂昭如氏と交渉している。また「ほろ酔い討論会」の参加者については、後日決定することになった。

○10周年記念出版について

第1稿がまだ未完成であり、その完成を急ぐ。

○10周年記念海外研修について

前回の幹事会までの参加予定者が相次いで不参加となり、10周年記念として行なう海外研修としては規模的にも強行する意義がないという判断から、今回の海外研修は見送られることになりました。

しかし10周年記念の海外研修はぜひとも実現しなければならず、来期に向けてプランの充実が望まれる。

2. 第9期分科会報告会及び第10回総会について

REF第9期分科会報告会及び第10回総会が、平成元年7月22日(土)に福井県職員会館401号室において開催されることになりました。以下に詳細を示します。

REF第9期分科会報告会

次第 午後3時00分

1. 開会

2. 幹事長挨拶

3. 分科会報告(各発表時間12分、質疑3分以内)

①交通分科会

②緑分科会

③土地利用分科会

④地盤分科会

4. 総評(夜)

5. 閉会

REF第10回総会 午後4時35分

次第

1. 開会

2. 会長挨拶

3. 会友祝辞

4. 新入会員紹介及び会員等移動報告

5. 第9期活動報告

6. 議長選出

7. 議決事項

(1) 第9期決算報告について

(2) 役員改選について

(3) 第10期予算案について

8. 第10期活動方針

(1) 幹事長決意表明

(2) 各分科会

(3) 理論研究会

(4) 談話会

(5) 研修会

9. 閉会の辞

懇親会

..... 午後6時00分

次第

1. 開会挨拶

2. 乾杯

3. 歓談(適宜スピーチ)

4. 閉会の辞

3. 会員の異動等雑件

本幹事会において、川上洋司氏(福井大学環境設計工学科助教授)の入会、北嶋重昭氏、本田周作氏の退会が承認されました。

※なお7月13日(木)に第8回幹事会が開催されました。

内容は以下のとおりです。

10周年記念イベント: 引き続き検討中

10周年記念出版: 第1稿の完成を急ぐ

海外研修: 中止の確認

第10回総会: スケジュールについて

会員の異動等雑件: 古市俊和氏(福井市役所)の入会、井上勲氏、水野雅男氏、福井真理子さんの退会が承認されました。

第8回理論研開催

6月16日(金)に第8回理論研の開催されました。出席者は石森氏、前川氏、山納君の3名でした。

今回は以下の6つの語について読みました。

13. 交換 石森氏担当

15. コスモロジー 前川氏 "

16. 子供 山納 "

37. 病い "

なお次回は7月26日(水)に開催の予定です。

※第9期REFの活動も7月22日の分科会報告会をもって終わりを迎え、私が広報支援として発行してきたREFニュースもこの第66号が最後となります。今期当初は「リフレッシュREFニュース」と大看板を掲げ、新しい企画を取り入れるなどして、マンネリ化してきたという不評を払拭するために努力したつもりだったのですが、今振り返ってみれば大きな成果も得ることなく今期を終えようとしています。結局発行回数8回、そのうち新企画を盛り込んだ特版はたったの2回ということで、皆さんの期待に答えることができませんでした。この場を借りてお詫びいたします。来期からのREFニュースがより一層充実したものになることを期待して!

(by ICHI)



NEWS

'89 SEP. 21
第67号

発行:RESEARCH GROUP OF REGION AND ENVIRONMENT IN FUKUI

〒910 福井市中央3-1-5三谷ビル203(財)地域環境研究所内
福井地域環境研究会

☎ (0776) 27-0078

第十回総会 開催される

第九期活動をしめくくり、次期活動計画を討議する第九期分科会報告会及び第十回REF総会が、7月22日(土)に県職員会館401号室にて開催されました。まず、報告会が予定より15分ほど遅れて3時15分から総合司会の竹内氏の開会の辞で始まり、幹事長挨拶の後、橋本氏の司会で分科会報告が行われました。交通分科会は八幡氏、土地利用分科会は沢崎氏、地盤分科会は前田氏が発表し、それぞれの報告にたいして活発な質疑応答が交わされました。緑分科会、地域事業分科会は発表は行われませんでした。

続いて4時35分より総会に移り、開会の辞、会長挨拶、岐阜県土木部長の反原氏による会友祝辞、新入会員紹介及び会員等移動報告、第九期活動報告、議長選出(山本氏)と続き、議決事項三件が提案され、承認されました。(以下にその内容を記載)

その後、第十期活動方針について、幹事長の加藤氏の決意表明に続き、各分科会会长により分科会活動方針、各幹事により理論研究会、談話会、研修会の活動方針が説明されました。最後に副幹事長による閉会の辞で第十回総会は閉会しました。

総会終了後は懇親会が催され、乾杯、歓談と続き、スピーチなどが行われ、盛況のうちに万歳三唱をもって閉会となりました。

- 議決事項 すべて可決されました。
- ・第九期決算報告について
- ・役員改選について
- 第十期予算案について

議決事項

第十期役員案(敬称略)

会長	富田伊太郎
副会長	本多義明
幹事長	児玉忠
副幹事長	加藤哲男
幹事	前川政人 (地域交流担当・地域事業)
幹事	橋本一男
幹事	渡辺知幸 (財務・地盤分科会)
幹事	八幡智和 (交通分科会・談話会)
幹事	中村毅 (緑分科会)

幹事	沢崎幸夫 (土地利用分科会・広報)
幹事	石森信敏 (理論研究会)
幹事	川村一治 (研修会)
幹事	福井隆夫 (情報)
幹事	伊藤正明 (財務支援)
幹事	稻葉隆夫 (財務支援)
幹事	山納武彦 (広報支援)
幹事	近藤幸次 (イベント)
監査	竹内成和 (記念出版)
監査	勝典
10周年幹事	10周年幹事

第9期決算報告

収 入		支 出	
費 项	決 算	費 项	決 算
正会員会費	736,000	分科会活動助成金	220,000
学生会員会費	24,000	理論研究会助成金	30,000
会友会費	120,000	談話会助成金	13,417
中間報告会	65,500	研修会助成金	30,000
総会	59,000	機関紙印刷費	230,000
総入金	19,804	中間報告会費	111,285
預金利子	302	総会費	114,770
寄付金その他	0	会議室管理費	30,000
会費未納金	58,000	通信連絡費	41,251
		旅 費	10,000
		雜 費	7,940
		予 備 費	0
		積 立 金	120,000
合 計	1,082,606	合 計	958,639

総入金=1,082,606-958,663=123,943

第10期予算案

収 入		支 出	
費 项	予 算	費 项	予 算
正会員会費	792,000	分科会活動助成金	200,000
学生会員会費	12,000	理論研究会助成金	30,000
会友会費	156,000	談話会助成金	90,000
中間報告会	45,000	研修会助成金	80,000
総会	65,000	機関紙印刷費	175,000
総入金	123,943	10周年記念事業費	800,000
積立金	520,000	中間報告会費	120,000
預金利子	33,057	総会費	130,000
寄付金その他	2,000	会議室管理費	30,000
会費未納金	93,000	通信連絡費	70,000
		旅 費	10,000
		雜 費	16,000
		予 備 費	91,000
		積 立 金	0
合 計	1,842,000	合 計	1,842,000

第2回幹事会開催

第2回幹事会が9月14日午後6時30分より、REF会議室で開催されました。出席者は、児玉氏（副会長）、加藤氏（幹事長）、長村氏（副幹事長）、前川氏（地域交流・地域担当）、橋本氏（総務）、八幡氏（交通・談話会）、中村氏（緑）、石森氏（理論研）、稲葉氏（財務支援）、伊藤氏（談話会支援）、広田氏（前総務）、山納（広報支援）の12人でした。今回は、10周年記念イベントを中心に話し合いました。

* 次回の幹事会は、10月2日（月）PM6:30からです。

1. 10周年記念イベントについて

仕事の分担を決定。

講演会、討論会の内容、チケット・チラシ等の詳細を検討。野坂氏が、第二部のほろ酔い討論会に出席するかどうかは、9月いっぱい確定する。

ほろ酔い討論会の参加申込みは、郵送で申込みだけ受けており、参加費は当日徴収する。

当日、REFバックナンバーの販売を予定している。

2. 10周年記念出版について

フロッピーを編集委員に渡すことを確認した。

11月11日の出版は絶望的。野坂氏の講演を含めるかは、講演会の後で決定する。

3. 9~10月の行事予定について

* 理論研究会は、9月25日（月）に開催します。

* 談話会は、山本迪氏の都合を聞いて、10月中～下旬に行います。

* 岐阜との地域交流の参加者の確認。

お詫びとご挨拶

今号からニュースの担当者がかわりました。これからは山納がニュースを発行してゆきます。あろうことか最初から発行を遅れてしまい、どうもすみませんでした。今後はまずは遅配のないよう、注意してゆきたいと思います。そのほか、誤字や未熟な表現等至らぬところもたくさんあるでしょうが、どうかおつきあいください。それではなにとぞよろしくお願ひします。

(お詫びの文で挨拶することは避けたかった編集担当者)

REF10周年記念イベント

速報

REF10周年記念イベントの詳細をお知らせします。

* 日時 平成元年11月11日（土）PM2:00から

* 会場 福井市民福祉会館

* 基本テーマ 「地方都市に活路はあるか」

* 第一部 REF結成10周年記念講演会

一般参加者 500人程度 大ホールにて

講演1 作家 野坂 昭如氏

講演2 建設省都市局専門官 萩原 達郎氏

* 第二部 10周年記念ほろよい討論会

REF会員及び一般参加者50~100人程度 集会室にて
参加費 2000円

パネラー 野坂 昭如氏（予定） 萩原 達郎氏

川上 洋司氏（福井大学助教授）

伴藤真理子さん（アンビック英語教室講師）

小林 嶽 氏（福井新聞論説委員長）

白井 淳夫氏（ジャズパブ経営）

司会者 本多 義明氏（REF副会長、福井大学助教授）

* スケジュール

13:30 開場

14:00 第一部開始、開会の辞
会長挨拶

14:10 講演1開始

15:10 質疑等開始

15:40 休憩

15:50 講演2開始

16:50 質疑等開始

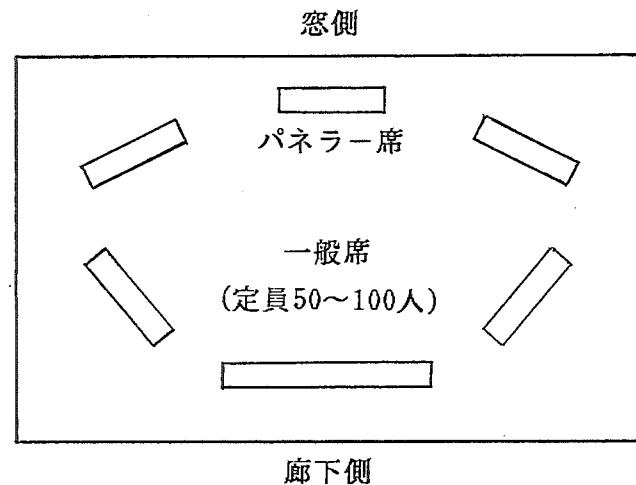
17:20 休憩

18:00 第二部開始

20:00 第二部終了

* 会場は、円形に机を配置する予定です。

室内配置（案）



REF9号訂正のお知らせ

REF9号の分科会研究報告において誤りがありましたので訂正をお願い致します。
31ページの交通分科会のメンバ一名に杉森正義氏のお名前がもれています。お手数ですが、お手元のREF9号を下記のようにご訂正下さい。よろしくお願い致します。
なお杉森氏には誠に失礼なことを致しました。全く他意はございませんが言い訳のしようもありません。心よりお詫び申し上げます。本当に申し訳ございませんでした。

..... 交通分科会研究報告編集担当者

訂正前

5-1 県内交流ネットワークに関する考察

交通分科会： ○八幡智和 稲葉隆夫 今度充之 城下裕子 関野 優
本多義明 前川政人 山本 迪 滝 裕孝 川上洋司
伊藤正明 一守由紀夫

↓
↓
↓

切り取り線

5-1 県内交流ネットワークに関する考察

交通分科会： ○八幡智和 稲葉隆夫 今度充之 城下裕子 杉森正義
本多義明 前川政人 山本 迪 滝 裕孝 川上洋司
伊藤正明 一守由紀夫

第3回幹事会開催

第10期第3回幹事会が、10月2日（月）午後6時30分より行われました。出席者されたのは本多氏（副会長）、児玉氏（副会長）、加藤氏（幹事長）、長村氏（副幹事長）、前川氏（副幹事長・地域交流）、橋本氏（総務）、渡辺氏（財務・地盤）、中村氏（緑）、沢崎氏（土地利用・広報）、石森氏（理論研究会）、稲葉氏（財務支援）、伊藤氏（談話会支援）、近藤氏（イベント）、山納（広報支援）の14人でした。今回の幹事会では、いよいよあと1ヵ月後に迫った10周年記念イベントの内容を中心に話し合われました。

1. 10周年記念イベントについて

◎講演者について

荻原氏が講演に来られなくなりました。
野坂氏は第2部には出席されず、第1部の講演会のみの参加となりました。

そのため、新たに山梨大学の花岡助教授に講演依頼を試みることになりました。また、ほろ酔い討論会のパネラーについても検討を加えました。

なお、その後花岡先生も都合が付かなかったため、住宅・都市整備公団理事の依田和夫さんに決定しました。

前号の記事で、パネラーとして出席予定の伴藤真理子さんの勤務先が間違っていました。訂正致します。

伴藤真理子さん アイビー学院 総括部長

◎参加者の募集方法

チラシをREF関係者及び諸機関に配布して広報につとめる。ほろ酔い討論会については、REF関係者に直接申し込んでもらってそれを集計するほか、チラシについている申込書による郵送での直接の申し込みも受け付ける。

◎そのほか、予算やチラシのデザインなどについて話し合われました。構成、演出などの細部については、次回の幹事会で話し合う予定です。

2. 会員の移動等雑件

◎本幹事会において、福井大学院生の磧(たに) 浩司君と、福井大学4年生の前田栄一君の入会が承認されました。二人とも、地盤分科会への入会が内定しています。二人の入会により、REFの会員数も98人となりました。100人の大台にのるのももうすぐですね。

◎次回の幹事会は10月25日（水）6時30分からです。

第1回理論研開催

第1回理論研究会が、9月25日（月）に開催されました。出席者は、石森氏、加藤氏、前川氏、山納の4名でした。内容は以下の通りです。

女性原理	…加藤氏
身体	…石森氏
神話	…山納
スケープゴート	…前川氏
制度	…加藤氏

次回は10月24日（火）の6時30分から開催の予定です。この頃、出席者が少なく会が少々寂しくなっています。皆さんのご参加をお待ちしております。また、そろそろ次の教材を選びますので、「こんなのが読みたい」、「この本がおもしろい」といったご意見がありましたらお知らせください。

「都市と農村」研究会との 交流会 無事おわる

岐阜の「都市と農村」研究会との地域交流を進めるため、9月30日（土）に岐阜で交流会を行いました。REFからの出席者は、本多氏、加藤氏、前川氏、稲葉氏、村松氏、山納の6人でした。そして「静岡かわを考える会」から、辻礼子氏が出席されました。まず午後1時30分過ぎからの講演会では、岐阜県国際交流センター理事長の田中三郎氏が夏目漱石・福沢諭吉ら6人の人物を例に個人にとっての国際交流について、続いて(社)淡水生物研究所長の森下郁子氏が、川の話を中心に環境問題を講演されました。講演のあとの交流会では挨拶に続いて、3研究会それぞれの活動内容や各地域の現状、今後の展望などについての活発な意見交換を行いました。

お詫び

前号（REF 67号）の記事の中で岐阜県土木部長の丹原氏のお名前を間違えてしましました。また、ほろ酔い討論会に出席される予定の伴藤さんの勤務先についても、確認を怠ったために違ったことを書いてしまいました。丹原氏、伴藤さんにはもちろんのこと、ほかにも多くの方にご迷惑をかけてしまい、誠に申し訳ございません。今後はこのようなミスのないよう、充分に注意したいと思います。

交通分科会

前回は以下の4つのテーマについて、各人の分担を決定した。

1. 都市と農山村の交流ネットワーク
2. 県境部の改善による交流の促進
3. 冬期、積雪期の交流ネットワーク
4. 県内交流ネットワークの歴史的考察

今回のその班ごとに今後の方針を発表し、分析を進めていくまでの問題点やデータの収集等について話しあった。次回までに各班でさらに研究内容を検討しておく。次回の分科会は11月16日（水）PM6:30より行なう。

縁分科会

10月9日（月）に三谷ビルにおいて、「福井の街の色」（仮題）をテーマとして都市の顔としての駅周辺に着目して各都市の駅周辺と比較しながら福井の街の色について調査を進めることとした。

次回は11月15日（水）に三谷ビルで開催する予定。

分科会だより

土地利用分科会

昨年は「福井市における土地経営」をテーマに、地方都市における土地問題を検証したが、本期においては、更にこの土地問題を掘り下げる予定している。本期第1回目の分科会を10月31日に開催し、本期の活動方針を決定する。

地盤分科会

本期の具体的なテーマは決定していないが、現在既存データベースの応用及び法面の防災、地下空間の利用等のテーマで検討中である。次回の分科会は10月下旬に開催予定。

地域事業分科会

本期の活動は現在未定である。

REF10周年記念講演会についてのお知らせとお願い

REF10周年記念講演会の会場、出席者などが決定しました。詳しくは同封したチラシのとおりです。このチラシを各所に掲示・配布して、広く参加者を募集することにしています。そこで、REF会員の皆様に次のことをお願いしたいと思います。

1. 知り合いの方々に講演会のPRをして、参加者を募って下さい。
2. 第1部の講演会のほうは参加は自由となっており、事前の申込みなどは必要ありません。
3. 第2部のほろ酔い討論会は、定員が100名と限られており、事前に参加申込みを受けることになっています。一般の申込み者については郵送で申込みを受けることになっていますが、REF会員が集めた参加希望者については福井県庁都市計画課の加藤または沢崎までご連絡ください。以上のようにお願いします。（TEL. 0776-21-1111）

以上の3点について、ご協力をお願いします。

REF結成10周年記念講演会

基本テーマ 「地方都市の名譽と未来のために」

日時 平成元年11月11日（土）PM2:00～7:00

会場 福井市民福祉会館 大ホール（第1部）

3F 301号室（第2部）

第1部 講演 PM2:00～4:50 定員500名 入場無料

1. 野坂 昭如氏（作家）

「地方都市文化の再興」（仮題）

2. 依田 和夫氏（住宅・都市整備公団 理事）

「地方都市整備への提案」

第2部 ほろ酔い討論会 PM5:00～7:00

定員100名 参加費2000円

講師：依田 和夫氏（上記）

橋詰 武宏氏（福井新聞政経部長）

白井 淳夫氏（ジャズパブ経営）

伴藤真理子氏（アイビー学院総括部長）

佐々木哲夫氏（今立町役場勤務）

座長：本多 義明氏（福井大学工学部助教授）

主催 福井地域環境研究会

後援 福井新聞社・福井商工会議所・(財)地域環境研究所

* 第1部の講演は参加申込みは不要ですが、第2部のほろ酔い討論会は、参加の申込みをして下さい。

結成10周年記念 講演会開催

「地方都市の名譽と未来のために」のテーマのもとに、REF結成10周年を記念した記念講演会が、講師に作家の野坂昭如氏と住宅・都市整備公団理事の依田和夫氏を招いて11月11日（土）午後2時から福井市民福祉会館で開かれました。REF関係者のほかにも一般の方々も数多く参加される盛況ぶりでした。

まず2時から第1部の講演会が6階大ホールで行なわれました。はじめに野坂氏が「地方都市文化の再興」をテーマに講演され、「文化、とは現在行なわれている”村おこし”のような短期間でできるものではなく、地域に根付いて何年もかけて育ったものが本当の文化ではないか」また、「東京のような都会では人は自分の拠り所を見失っており、そんなところに文化は育たない」と話されました。次に依田氏が「地方都市整備への提言」として今後の都市の在り方について、氏が携わった小樽運河等を例にあげながら、求められている都市施設の変化、今後の都市内での設備のあり方など、主に施設面から意見を述べられました。

続いて午後5時過ぎから第2部のほろ酔い討論会が、会場を3階に移して行なわれました。副会長の本多氏を座長（司会者）に、講釈師（パネラー）として依田氏のほか福井新聞政経部長の橋詰竹宏氏、ジャズパブ経営の白井淳夫氏、アイビー学院総括部長の伴藤真理子さん、今立展を担

'89 11.12 福井新聞より

平成元年(1989年)11月12日(日曜日) (24)

当された今立町役場の佐々木哲夫氏らを迎えて行なわれました。この討論会は普通のパネルディスカッションと違い講釈師の方には話題を提供していただくにとどめ、参加者全員が議論をするという構成をとりました。そのため、参加者は中心をむいてリング状に座り、また意見を出しやすくするために軽く飲み物類も配られるという新しい形式の討論会となりました。具体的には県庁のお掘についてなどの福井県内の都市における現状についての言及や、今後の将来像について活発に意見がかわされました。

’89 11.12
目刊福井より

地方の在り方考える

野坂昭如氏ら招き講演

REF
大都市に住みたいと思ふ」と述べた。
統いて依田氏が「地方整備への提案」をテーマ説を主張。第二部では福

YRP主催の シンポジウムに参加

山梨地域計画研究会主催のシンポジウム「地方都市のマスタートップランづくり」が、12月9日（土）に甲府市で開かれ、REFからも加藤氏、川上氏、前川氏の3名が出席しました。午後1時からの山梨大学教授・花岡先生の基調講演、それに続くパネルディスカッションでは地方都市の今後のあり方についてさまざまな意見が述べられ、シンポジウムは盛況のうちに終わりました。その後午後5時からは懇親会も開かれるなど、一層の交流を深めることができました。

第4回幹事会開催

第4回幹事会が10月25日（水）午後6時30分より行なわれました。出席されたのは本多氏（副会長）、児玉氏（副会長）、加藤氏（幹事長）、橋本氏（総務）、渡辺氏（財務・地盤）、八幡氏（交通・談話会）、中村氏（緑）、沢崎氏（土地利用・広報）、石森氏（理論研究会）、稻葉氏（財務支援）、広田氏（前総務）、竹内氏（記念出版）、山納（広報支援）の13人でした。内容は、10周年記念イベントについて、当日の役割分担や経費のチェックなどを中心に話し合いました。

第5回幹事会開催

第5回幹事会が11月2日（木）午後6時30分より行なわれました。出席されたのは児玉氏（副会長）、加藤氏（幹事長）、長村氏（副幹事長）、橋本氏（総務）、八幡氏（交通・談話会）、中村氏（緑）、石森氏（理論研究会）、川村氏（研修会）、稻葉氏（財務支援）、広田氏（前総務）、竹内氏（記念出版）、山納（広報支援）の12人でした。今回は、第2部のほろ酔い討論会の進行方法を中心に話し合いました。

臨時幹事会開催

臨時幹事会が11月9日（木）午後6時30分より行なわれました。出席されたのは本多氏（副会長）、児玉氏（副会長）、加藤氏（幹事長）、長村氏（副幹事長）、前川氏（地域交流・地域事業）、橋本氏（総務）、渡辺氏（財務・地盤）、中村氏（緑）、石森氏（理論研究会）、川村氏（研修会）、稻葉氏（財務支援）、広田氏（前総務）、山納（広報支援）及び、ほろ酔い討論会の打ち合せをかねて参加された福大助教授・川上洋司氏のあわせて14人でした。今回は、10周年イベント当日の細部の詰めと出席者の最終確認などを行ないました。

なお次回の幹事会は、1月11日（木）午後6時30分から行なう予定です。

※海外ニュース※

釜山の研究会との 交流促進される

1. 10月3～6日

I R E 第三次海外研修で、釜山開発システム研究所との交流会を行ないました。R E F会員は本多氏、川上氏、村松氏、山納が参加しました。

2. 12月6～8日

釜山未来学会（研究会）の設立会で、本多副会長が特別講演を行ないました。

なお、1990年度は、一層交流を促進するため、釜山の研究会メンバーを福井へ招請する予定です。

第2回理論研開催

第2回理論研が、11月24日（金）に開催されました。出席者は石森氏、加藤氏、前川氏、山納の4名でした。内容は以下の通りです。

ダブルバインド	…前川氏
プラクシス	…加藤氏
臨床の知	…石森氏
レトリック	…山納

第3回理論研開催

第3回理論研が、12月27日（水）に開催されました。今回から新しいテキストに入りました。今度のテキストは少々趣を変え、司馬遼太郎氏の「明治という国家」…日本放送出版協会…です。これを機に、皆さんのご参加をお願いします。内容は以下の通りです。

「述語集」

ロゴス中心主義 …石森氏

「明治という国家」

第1章 …前川氏

第2章 …山納

次回は1月26日（金）午後6時30分より行なう予定です。

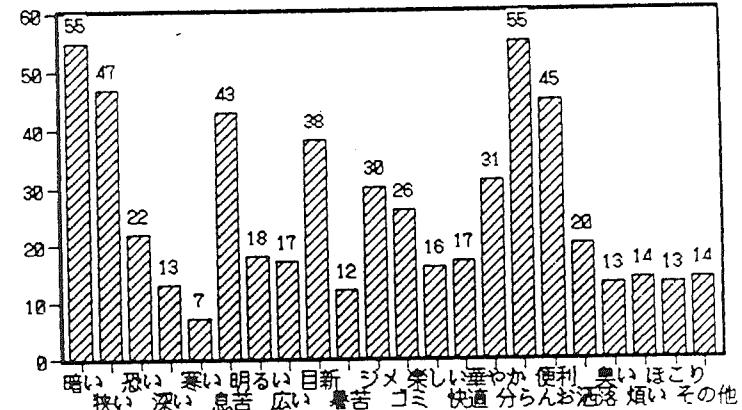
アンケート調査結果 まとまる

先日、(財)地域計画研究所及び福井大学工学部本多研究室の行ないました、「福井市の地下空間」ならびに「食文化と地域づくり」に関するアンケートにご協力いただきました。ありがとうございました。このたび、集計結果がまとまりましたので報告いたします。

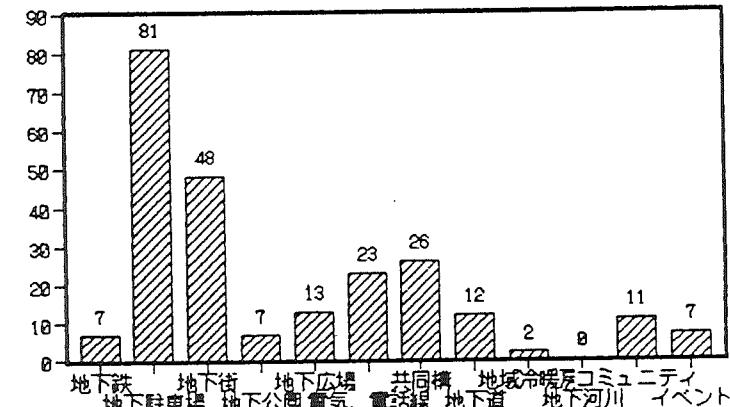
1. 福井市の地下空間について

全部で120票集まりました。結果は次のグラフの通りとなっています。

Q3 「地下空間」という言葉のイメージは? (5つ)



Q5 近い将来、福井都心部で必要と思う地下施設 (2つ)



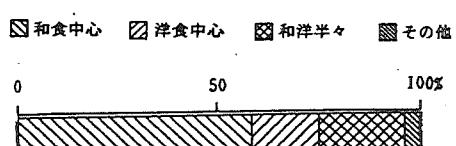
Q4 福井市都心の地下空間開発について

	思う	思わない	分らない
都心機能集中による地価の高騰から地下利用が進む	68 56.7%	35 29.2%	17 14.2%
地価利用技術発達によるコスト低下から利用が進む	41 34.2%	28 23.3%	51 42.5%
交通渋滞、駐車場不足の深刻化から地下利用が進む	84 70.0%	28 23.3%	8 6.7%
都市景観向上のためケーブル類の地下化が進む	112 93.3%	5 4.2%	3 2.5%
降雪時において充実した行動を可能とするため	105 87.5%	11 9.2%	4 3.3%
都心活性化への経済効果が大きい	68 56.7%	22 18.3%	30 25.0%
都心内移動を安全で快適にするため地価利用が進む	72 60.0%	31 25.8%	17 14.2%
イメージから防犯、防災上等の不安を招く	51 42.5%	45 37.5%	24 20.0%
土地の制約から地価空間利用が進む	66 55.0%	29 24.2%	25 20.8%
総合的にみて、福井に地価空間は必要である	92 76.7%	16 13.3%	12 10.0%

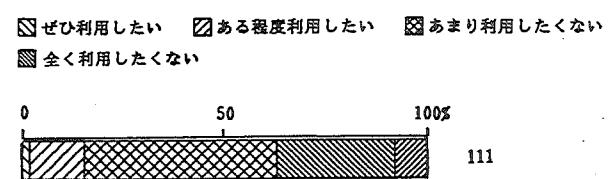
2. 食文化と地域づくりについて

全部で113票集まりました。結果は次のグラフの通りとなっています。

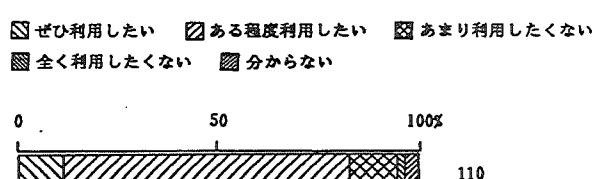
Q8 朝食の種類



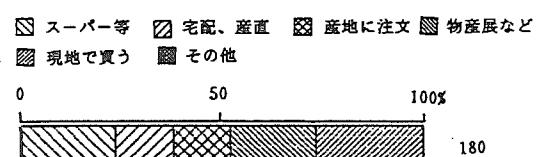
Q9 宅配サービス利用の意志



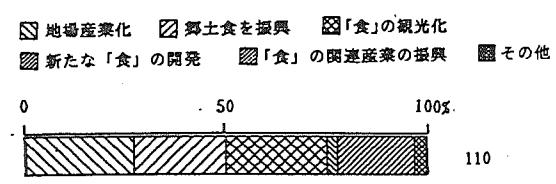
Q10 ふるさと食品の利用の意志



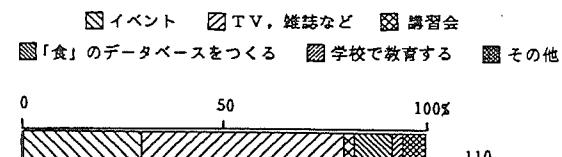
Q11 ふるさと食品の利用手段 (2つ)



Q12 地域づくりへの「食」の生かし方



Q13 「食」のPR方法



Q14 「食」が地域づくりに役立つか

